

| | | | |
|-----------|--|-------|-------|
| 講義名 | ビジネス法A（ビジネス契約と法律） | | |
| 科目区分 | 学部専門科目 | | |
| 担当教員 | 藤井 啓吾 | | |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 水曜日 1時限 | | |
| | 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2014年度 サービス産業学部 観光学科 / 2014年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2014年度 商学部 商学科 / 2013年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2013年度 サービス産業学部 観光学科 / 2013年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2013年度 商学部 商学科 / 2012年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 | | |
| 履修開始年次 | 2年生 | 単位数 | 2 |
| | | 講義コード | 31049 |

主題と概要

「ビジネス契約と法」をテーマとして学ぶ。ビジネス上の取引の法的表現である「契約」に関する法に対する基本的な理解を獲得することを目的とする。
 企業間取引に携わるにあたって遭遇する可能性のある具体的な法律問題を設例として掲げ、その問題を解決するにあたって必要とされる法律上のルールを学ぶ。

到達目標

・社会人となり企業間取引に携わるにあたって、自らが行っている取引行為の法律上の意味を理解することができるようになる。
 ・企業間取引に携わるにあたって取引をめぐる法律上のトラブルに遭遇した際に、解決に向けての大きな道筋を描くことができるようになる。

提出課題

各回(原則)の授業において提示する課題に対する答案の提出を求める。各回の講義内容を復習しつつ課題の答案を作成し、次回の授業の開始前に答案を提出すること。

評価の基準

期中の評価の比重を40%、期末の評価の比重を60%とし、課題の難易度等によりこの比率に実質的な変動を来たすことのないよう、それぞれを素点ではなく偏差値の積み上げによって評価する。
 期中の評価は、各回(原則)の授業において提示する課題に対する答案、授業に関する質問などの内容や提出状況を総合的に評価して行う。授業に欠席した場合でも、当日実施した課題に対する解答などを、授業期間中であれば後日提出することを認めるが、当然、相応の減点を行うので留意すること。期末には、期末試験を実施する。
 合格最低ラインは絶対評価とし、この科目で習得すべきと考える最低限の内容すら習得しえていないと判断される者は不合格とする。したがって、期中の評価にかかわらず、期末試験の成績が相応の水準に達していない場合は不合格とすることもあるので注意すること。合格者内の評価は原則として相対評価とし、概ね、
 A : A : B : C = 1 : 2 : 3 : 3の比率で評価を行う。

履修にあたっての注意・助言他

受講者への連絡、資料の配布などは、授業時間内に行う。これに加え、Ryuka Portal に掲示するので、特に授業を欠席した場合は、これを参照しておくこと。また、このシラバスの記載事項に対する補足・改訂もこれを通じて行うことがあるので、登録前に参照しておくこと。
 受講者や教室の状況によっては、座席指定を実施することがある。その場合は、指定された座席に着席して受講すること。

教科書

・使用しない。

プリント資料及び参考文献

各回の授業に際しプリントを配布する。なお、過去に配布したプリントを授業中に参照することがあるので、散逸しないようにファイルし、授業に際して必ず持参すること。

授業計画

- 1 ビジネスと法律のかかわりあい
- 2 契約はどのようにして成立するのか
- 3 契約の申込みの効力
- 4 契約が成立するとどうなるのか
- 5 会社はどうやって契約を結ぶのか
- 6 代表と代理
- 7 ビジネスにおける契約締結の実務
- 8 動産と不動産の取引
- 9 不動産登記のしくみ
- 10 約束手形とその振出
- 11 約束手形の裏書・支払い
- 12 債務不履行と契約の解除
- 13 商品の欠陥への対処
- 14 代金の不払いと債権回収
- 15 まとめ - ビジネス契約と法律

予習・復習

予習：各回の授業で取り上げる課題を事前に示すので、課題の内容をよく理解し、自分なりの答えを用意して授業に臨むこと。なお、予習の際に用意した解答を事前に提出してもらうことがあるので、指示に従って提出すること。
 復習：授業では、課題に対して解答を導くために必要とされる法令やその解釈、法令に基づく諸制度などについて解説を行うので、それらの解説や、解説に基づき自ら考えたことなどを振り返り、課題に対する答案の形でまとめること。
 予習・復習に対する時間配分は、1回の授業につき、予習1時間、復習3時間を目標とすること。

備考